

## 京都芸大移転予定地とまちづくり

「柳原銀行記念資料館」を探していたとき、「崇仁地区」と呼ばれる一帯は、空地と空家が多く、人の気配をあまり感じなかった。空地の多くはロープやフェンスで囲われていたが、すぐに工事が始まる感じでもなかった。なんだか静まりかえり不思議な空間だった。資料館の場所を聞こうとしても、住民らしき人に会えなかった。たまたま見つけた郵便局で尋ねることにした。

資料館の展示のなかに京都市立芸術大学の「崇仁地区」への移転構想もあり、それで空地と空家も納得できた。これまで移転構想について知らなかった。私が知らないだけかもしれないが、名古屋の新聞などで、ほとんど報じられていないのでは。「崇仁地区」の歴史とともに、大学移転とまちづくりについて興味をもった。ネットで調べてみると、多くの情報が掲載されていた。

とりあえず京都市の2017年3月30日の広報資料から。

「京都市立芸術大学（以下「京都芸大」という。）は、建学以来140年にわたり、国内外の芸術界や産業界で活躍する人々を輩出し、文化芸術の発展に貢献してきました。

これまでの質の高い芸術教育を継承しながら、現在の京都芸大の抱える課題を解決し、京都芸大が世界に向けて一層の飛躍を果たすとともに、「市民に愛され、誇りに思っただけの大学」として、京都のまちとともに発展していくよう、京都の玄関口であるJR京都駅東部の崇仁地区への移転整備を進めることとしています。

また、この移転整備によって、この地域が、文化芸術創造の“火床”となり、「文化芸術都市・京都」の新たなシンボルゾーンとなることを目指しています。」



(2017年7月20日)